

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-18551

(P2017-18551A)

(43) 公開日 平成29年1月26日(2017.1.26)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 G 7/02 (2006.01)	A 4 7 G 7/02	E
	A 4 7 G 7/02	G
	A 4 7 G 7/02	Z

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号	特願2015-150107 (P2015-150107)	(71) 出願人	510165231
(22) 出願日	平成27年7月13日 (2015.7.13)		大西 富三
			東京都目黒区目黒本町5丁目30番6号
			302号
		(72) 発明者	大西 富三
			東京都目黒区目黒本町5丁目30番6号
			302号

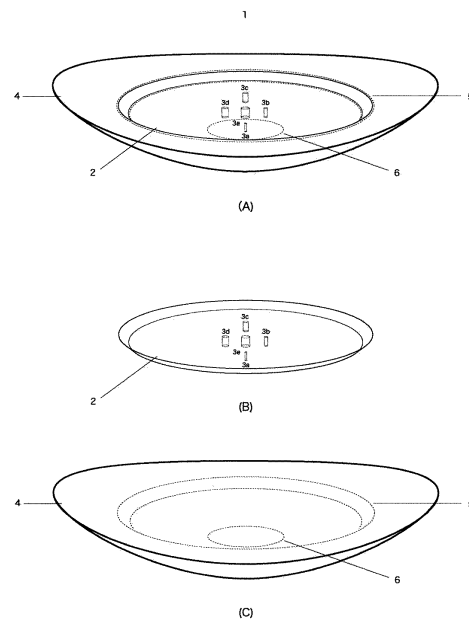
(54) 【発明の名称】 透明剣山付き花器

(57) 【要約】

【課題】花葉を生けるための固定具には、剣山・花立具・オアシス等が一般的でありそれらは素材や形状が目に見える、存在感のある用具で花葉は花器に生けられている。

【解決手段】透明の板を使用することで、水に浸かると水と同化して透明になる透明剣山は存在感がなく、その剣山を配置する花器は花葉だけが水に立っているように生けることができる透明剣山付き花器である。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

透明の板（例：ガラス・アクリル等）に花葉の茎を挿しこむ複数の任意の大きさの孔を開けた透明剣山。その透明剣山を水平に保ち花葉を固定させる位置に配置するための係止部凹凸を設け、底部には茎を固定させるために任意の角度をつけた窪みのある花器をセットにした透明剣山付き花器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、水に浸かると水と同化して透明になる透明剣山とその剣山を配置し、花葉だけが花器の水に立っているように生けられる花器の形状に関する。

10

【0002】

従来より、花葉を生けるための固定具には、針に突き挿す剣山や筒形状の花立具に挿入したりオアシスを使用するのが一般的であるが、その素材や形状は目に視える用具であり、花葉はそれら存在感のある用具によって花器の内に生けられている。

透明剣山と花器をセットにすることで、花器に水を入れると剣山が水と同化して透明になることで存在感がなくなり、花葉だけが花器の水に立っているように生けられる花器がなかった。

【先行技術文献】

【特許文献】

20

【0003】

【特許文献 1】特開 2008 - 054959 (P2008 - 054959A) 号公報

【特許文献 2】特開 2010 - 268932 (P2010 - 268932A) 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献 1 では、各面に任意の穴をあけた略コ字型の板状の外器に、水受け用の内器を配置して花器となるが、剣山としての素材と形状は目に視えて存在する。

特許文献 2 では、光を透過できる透明な線条部材を絡み合わせた、立体的網目の花留めであるが、立体構造であるため花留めより低い花器や低い位置で使用すると素材と形状は露出してしまふ。

30

そこでこの発明は、透明剣山を配置した花器に水を入れると剣山の素材や形状が水と同化して透明になることで存在感がなくなり、花葉だけが花器の水に立っているように生けられる、透明剣山付き花器を考案したものである。

【0005】

以上の課題を解決するために、第一発明は、透明の板（例：ガラス・アクリル等）に花葉の茎を挿しこむ複数の任意の大きさの孔を開けたことを特徴とする透明剣山。

その透明剣山を水平に保ち花葉を固定させる位置に配置するための係止部凹凸を設け、底部には茎を固定させるために任意の角度をつけた窪みのある花器をセットにした透明剣山付き花器。

40

【発明の効果】

【0006】

花器に配置した透明剣山の位置まで水を入れると、水平に保たれた透明剣山が水と同化して透明になることで存在感がなくなり、花葉だけが花器の水に立っているように生けることができる美観のある透明剣山付き花器である。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図 1】この発明の一実施形態を示す斜視図である。

【図 2】この発明の他の実施形態を示す斜視図である。

【図 3】この発明の他の実施形態を示す斜視図である。

50

【図4】この発明の図1・図2・図3の花葉を生けた実施形態を示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

この発明の一実施形態を、図1に示す。

図1は本発明の透明剣山付き花器(A)、透明剣山(B)、花器(C)の斜視図である。

(1)は本発明の全体図。水に浸かると水と同化し花葉を生けるための支持盤となる透明の板(2)に、大きさの違う花葉の茎を挿しこむための任意の大きさの複数の孔(3a・3b・3c・3d・3e・・・・)を開けることで花葉が花器(4)の中心に立ち固定させることができる透明剣山(B)。

透明剣山を水平に保ち花葉を挿し易くする位置に配置するための係止部凹凸(5)をを設け、底部には茎を固定させるため任意の角度をつけた窪み(6)のある花器(C)をセットにしたことを特徴とする、透明剣山付き花器(A)。

10

【0009】

「実施形態の効果」

一般的に花葉は、目に視える存在感のある剣山によって花器に生けられているが、透明剣山付き花器(1)であれば、透明の板(2)を係止部凹凸(5)に配置した花器(4)に水を入れると透明の板(2)が水と同じ透明度になることで存在感がなくなり、大・小の孔(3a・3b・3c・3d・3e・・・・)が花葉を固定させる透明剣山と、花器(4)の底部の窪み(6)が茎を固定させる花器(4)の中心で、花葉だけが水に立っているように生けることができる。

20

「他の実施形態」

図1の実施形態では、透明の板(2)は円形の五孔(3)、花器(4)は皿状で係止部凹(5)、底部は円形の窪み(6)であるが他の実施形態では、図2のように透明の板(2)は四角の四孔(3)、花器(4)は鉢状で係止部凸(5)、底部は四角の窪み(6)でも良く、図3のように透明の板(2)の大きさと孔(3)の数、花器(4)の係止部凹凸(5)、底部の窪み(6)の形状は花器(4)のデザインに合わせても良い。また、他の容器や器でも透明剣山が使用できれば透明剣山付き花器として扱うことができる。

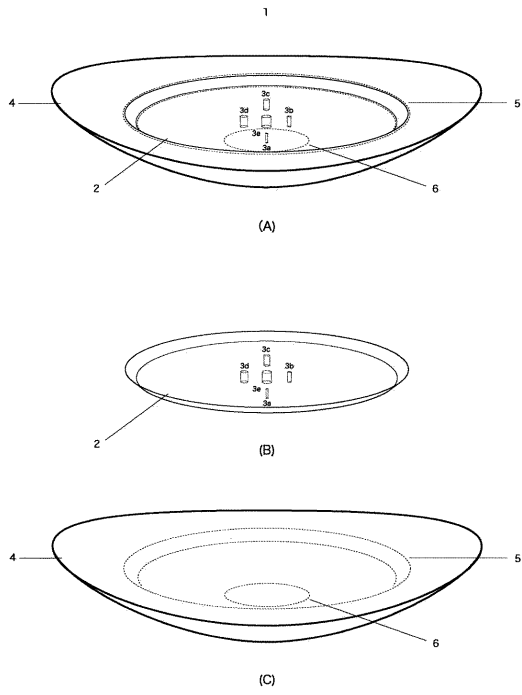
【符号の説明】

【0010】

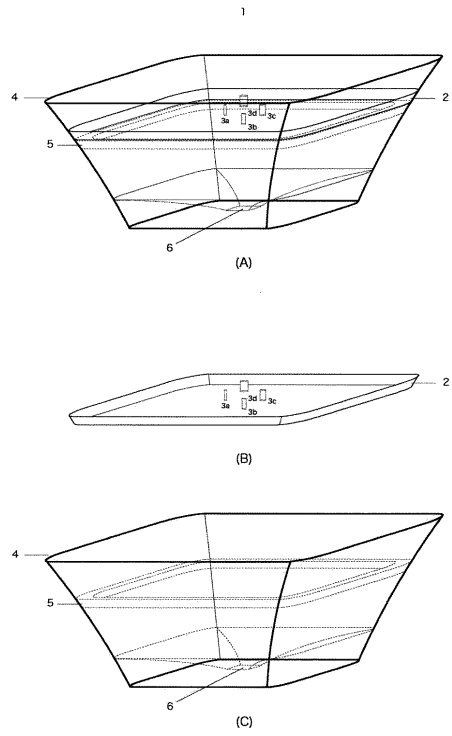
- 1 透明剣山付き花器
- 2 透明の板
- 3 孔(3a・3b・3c・3d・3e・・・・)
- 4 花器
- 5 係止部凹凸
- 6 窪み

30

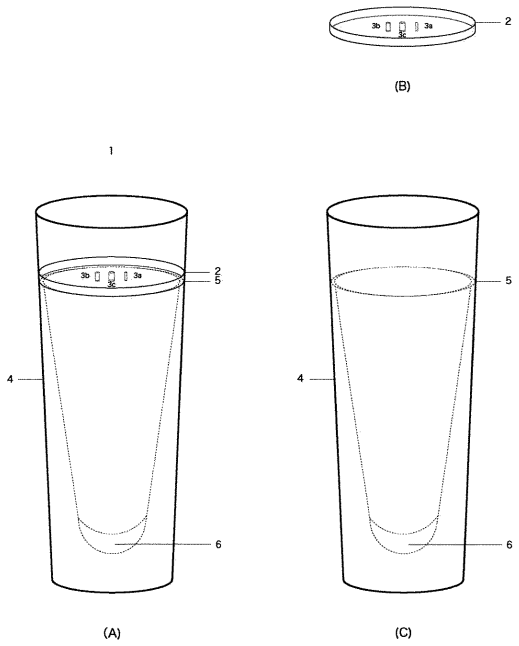
【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】

